



2021 (令和3) 年度
施政方針



那覇市市制100周年

那覇市

< 目 次 >

1 市政運営の基本姿勢

- (1) はじめに
- (2) ウィズコロナを生きる
- (3) 未来を生きるこどもたちのために
- (4) 輝く地域資源を磨く
- (5) 未来へつなぐ平和の心
- (6) 故きを温ね、行動を起こす
- (7) 豊かに紡ぐ協働の絆
- (8) 危機を捉え、新機軸を拓く
- (9) 賑わいを未来へつなぐ

2 予算編成と主要事業の説明

- (1) 予算編成の説明
- (2) 主要事業の説明

3 結びに

立ち向かう姿勢 次世代に

はじめに

はいたい ぐすーよー ちゅーうがなびら。

私たちは今、大きな試練の渦中にあります。新型コロナウイルスの感染拡大により、日常生活が一変しました。

そのような中、本市は市制施行100周年を迎えます。今こそ、心をひとつに、力を合わせ、この困難を乗り越えていかなければなりません。

記念すべき節目の年を、逆境に立ち向かい未来を創る挑戦の年として全力を尽くす覚悟です。

市民の皆様並びに本市議会の皆様におかれましては、より良い市政の実現に向け、格段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、令和3年度の施政方針と予算案、主要事業をあわせてご説明申し上げます。

ゆたさるぐとぅうにげーさびら。

(ウィズコロナを生きる)

新型コロナウイルス感染症は、感染者数の増加に歯止めがかからず、依然として厳しい状況にあります。

安心できる日常を取り戻すためには、私たち一人ひとりが、自身はもちろんのこと、大事な家族や友人、隣人の命を守るとの強い思いで感染防止に努めていくことが重要になります。

感染リスクに直面しながら、医療現場の最前線で奮闘されている皆様をはじめ、日常生活を支えるすべての皆

様の尽力に対し、感謝の念に堪えません。市民の安全・安心、暮らしを守る市長としての責任を果たしていくという気持ちを強くしています。

さて、本市では、「命を守る」「経済をつなぐ」「日常をつくる」という基本方針のもと、感染の各段階に応じた対策を幅広く実施してまいりました。

未だ収束の兆しが見えず、今後も厳しい状況が想定される中、幅広いニーズを捉えた切れ目のない対策を講じていく必要があります。引き続き、適宜、適切な対策を講じてまいります。

そして、いよいよワクチンの接種が始まります。本市では、「新型コロナウイルスワクチン接種推進室」をいち早く立ち上げ、関係機関との調整やコールセンターの設置など、円滑な予防接種に向けた準備を進めております。希望する全ての皆様が、安心かつ速やかに接種できるよう全力を尽くしてまいります。

（未来を生きるこどもたちために）

子どもたちの屈託のない笑顔には本当に心が癒されます。その笑顔を未来へつなげていくためにも、私たち大人は、子どもたちの健やかな成長のために力を注いでいかなければなりません。

新型コロナウイルスは、子どもたちの生活や子育て環境に大きな影響を与えています。これまで抱えてきた様々な課題の深刻化、潜在的課題の表面化などに、丁寧

に向き合っていかなければなりません。

子どもの貧困問題は、感染症のしわ寄せを大きく受けています。国連児童基金（Unicef）は、ウイルス流行による子どもの経済的影響を分析した報告書の中で、少なくとも今後5年間は子どもの貧困が増し、これまでの水準を上回る状況が続くと予想しています。

どのような状況にあっても、子どもの可能性と選択肢に制約があってはなりません。

今後とも家庭や企業、NPO など多様な主体の皆様と手を取り合い、課題の解決を図っていく必要があります。

こどもは那覇の宝、私たちの希望です。すべての子どもたちが、未来に希望を持てる環境を整えてまいります。

（輝く地域資源を磨く）

好調に推移していた沖縄経済は今、大きな打撃を受けています。観光客数は激減し、国際通りをはじめ市内の観光スポットから賑わいが失われる事態となりました。

地域経済を担う事業者の皆様を支えていくため、ニーズを的確に捉え、国や県とも連携を図りながら、引き続き事業継続のための支援を適切に講じてまいります。

コロナ禍の今、私たちには何が求められているでしょうか。経済の専門家は、回復する力「レジリエンス」を示し、危機から起き上がるための底力を備えておく必要性を提起しています。

ありがたいことに本市は、民間調査によるランキング

において、住みたいまち、魅力あるまちとして、上位入りを果たしています。

迎恩の心や伝統文化、何物にも代え難い自然、地理的優位性など、独自の輝きが魅力を上げているものだと思います。そして独自の輝きこそが、「レジリエンス」の源ではないでしょうか。

改めて地域の魅力を再認識し、アフターコロナ時代に必要な変化と融合していくことが、持続的な経済発展につながるものと考えております。

脈々と受け継がれてきた地域資源という財産を常に磨き上げ、訪れてみたい、住んでみたいと思われるような、選ばれるまちづくりに取り組んでまいります。

(未来へつなぐ平和の心)

いつまでも平和な毎日でありたい。誰もがそう願うと思います。

戦後 75 年の節目の年であった昨年は、沖縄戦をはじめ、先の大戦で犠牲となった人々のみ^{たま}霊を慰めるとともに、平和を願う気持ちがより高まった年でした。

時の経過とともに沖縄戦の体験者が少なくなり、歴史の風化が危惧されています。次の世代に戦争の実相と教訓を伝えてきた語り部の訃報に接しますと、本当に胸が詰まります。同時に、平和のバトンを次世代へつないでいく決意を強くしております。

記憶を伝える体験者が少なくなる中、「物言わぬ証言」

となる戦争遺構の重要性も増しています。

旧日本軍第 32 軍司令部壕は、沖縄戦の実相を現代に示す貴重な戦跡であり、恒久平和への気持ちを育む、平和教育に欠かせない場所です。保存継承に向けて、今後も沖縄県と連携して取り組んでまいります。

平和こそが発展の礎です。すべての人々が戦争の不条理や愚かさを知り、「命ぬちどう宝」の思いを胸に刻むことを願いながら、平和を希求する心を発信し続けてまいります。

(ふる故きをたす温ね、行動を起こす)

いよいよ本年 5 月 20 日に、本市は市制施行 100 周年を迎えます。

こんにち今日に至る那覇の発展は、多くの先達の知恵と経験の積み重ねであり、市民一人ひとりが那覇を想う心を紡いできた証です。戦後の復興や祖国復帰、中核市への移行など、先達のあゆみを振り返ると、改めて那覇の発展に尽くしていきたいという思いを強くしております。

今を生きる私たちは、次の 100 年に向けて確実な一歩が踏み出せるよう、新たな礎を築いていかなければなりません。その鍵となるものが、県都として備えた「求心力」を活かすことではないかと考えます。

求心力があるところには、ヒトやモノが集い、出会い、新しいコトが生まれます。新たなコトは価値を生みだし、社会に変革をもたらす力となります。そこにヒトやモノ

が惹きつけられ、魅力が積み重なる。このプロセスにチャレンジしていける環境を整えていくことが、本市の求心力を力強く昇華させていくことにつながるものと考えております。

歴史に学び、そこから新しい知識を導くことを意味する「温故知新^{おんこちしん}」という言葉があります。私はその言葉に、新たな行動を起こし挑戦していくという思いを重ね「温故^{おんこ}“起”^き新^{しん}」と表し、この節目の年を、未来に向かって行動を起こす契機としてまいります。

（豊かに紡ぐ協働の絆）

市政運営の礎としてきた「協働によるまちづくり」。20年余に渡り、市民の皆様とともに、その裾野を点から線に、線から面に広げる取組を進めてまいりました。

コロナ禍の厳しい状況においても、多くの市民や団体の皆様が、ボランティアによる支援の行動を起こしていることに、改めて那覇に根付いた「協働の力」を感じております。

近年、身体的・精神的・社会的にも満たされた状態を表す「ウェルビーイング（Well-being）」という概念が注目されています。物質的な豊かさだけでなく、心の豊かさが重要視される今の時代に求められている大切な概念であると感じております。

「協働によるまちづくり」の本質は、人とのつながりや地域の絆を感じることで喜びを見出し、自発的な活動

により自らの役割と意義を認識する中で、心の豊かさを満たすことにあるのではないのでしょうか。そのプロセスは、まさにウェルビーイングを高めるものであり、今後の市政運営にあたって、強く留意してまいります。

生活や地域を取り巻く環境は大きく変わりました。この変化を「協働によるまちづくり」を深化させていく契機と捉え、多様な活動主体の皆様とともに、協働の絆を太く紡いでまいります。その絆は幾重にも重なって立体となり、どんな困難をも包み込む温かい力になるでしょう。

物理的な距離が求められる今、心の距離はしっかり縮め、「協働によるまちづくり」に邁進してまいります。

（危機を捉え、新機軸を拓く）

新型コロナによる危機は、社会全体のデジタル化の流れを一気に加速させました。

国はデジタル・ガバメントの構築を最優先の政策課題として位置付け、デジタル庁の創設など様々な動きをみせています。

また、民間の他、様々な自治体において、テレワークやオンライン会議など働き方の変革が急速に進んでいます。

本市では、行政手続きのオンライン化や、AI・RPAなどのデジタル技術の導入・運用により、市民サービスの向上に努めてまいりました。そして今、市民の行動や意

識、価値観が変わるなかで、行政においてもデジタルトランスフォーメーション（DX）による組織文化の刷新や業務の効率化、さらなる市民サービスの向上などが求められていると認識しております。

環境への変化にスピード感をもって対応していくため、新たに「デジタル化推進室」を設置するとともに、庁内横断的なプロジェクトチームで、各行政分野の様々な場面において、デジタル化の優位性と利便性を実感できる施策を広げてまいります。

コロナ禍のピンチをチャンスと捉え、ニューノーマルの時代に、より良い市民サービスを提供できる市役所に進化できるよう、全庁一丸となってデジタル化を推し進めてまいります。

（賑わいを未来へつなぐ）

未来を見据えて蒔いた賑わいの種が、着実に成長し、芽吹きの時を迎えています。

いよいよ秋には、「那覇文化芸術劇場なは一と」が開館し、その後程なく第一牧志公設市場も完成します。国際通りを挟み東西に位置する両施設は、まちづくりの拠点として、中心市街地全体に大きな賑わいをもたらすものと確信しております。

また、那覇の賑わいを一層豊かなものにするには、市民・県民の心の拠り所である「首里城」の復興が不可欠です。その復興に向けた取組も前進しており、風格ある

歴史的環境を創出する首里のまちづくりに、国、県とも連携を図りながら取り組んでまいります。

そして、本市のみならず県全体の振興を考えるうえで重要となるのが、那覇軍港の着実な跡地利用です。返還合意から47年が経過する中、事態も動き出しております。力を尽くしてこられた全ての方々の思いをしっかりと受け止め、今後も地権者の皆様と協働による取組を進めてまいります。

さて、令和3年度末には現沖縄振興計画の期限を迎えます。初めて県民が主体となって策定し、本県の振興に大きく寄与してきた同計画の必要性はまだまだ強く求められています。東アジアの中心に位置する本県は、地理的優位性から日本経済再生のけん引役として期待されており、県都である本市の活性化は、県全体の発展に直結し、ひいては日本全体に光明をもたらすものと捉えています。フロントランナーとしての役割を自覚し、次期振興計画の策定に向けた取り組みを、県を中心に全市町村が一丸となって進めてまいります。

「賑わいを未来へつなぐ」これが私の使命であり、賑わいの種が、市内各所に芽吹き、咲き誇る花々となるよう、市政運営に邁進していく決意です。

予算編成と主要事業の説明

(予算編成の説明)

それでは、令和3年度予算案の概要を申し上げます。

一般会計予算は 1,610 億 1 千 7 百万円で、対前年度比 34 億 2 千万円、2.2%の増となっております。

歳入予算では、個人・法人市民税の減収により市税が大幅に減額するものの、財政調整機能の役割を担う地方交付税や臨時財政対策債で大幅な増額を見込んでおります。また、沖縄振興一括交付金（ソフト・ハード）などの減額を見込む一方、国庫支出金についてはワクチン接種対策費などにより、大幅な増額となっております。

歳出予算では、引き続き、感染症対策を講じながら、子どもの政策分野や経済分野に重点的予算を計上するほか、デジタル化への対応、新文化芸術発信拠点施設や市営住宅等の建設事業、学校教育関連事業など、各分野へ幅広く予算を計上しております。

結果として、約 17 億 6 千 2 百万円の収支不足が生じておりますが、財政調整基金から同額を取り崩して対応いたします。

企業会計を除く特別会計予算は、総額約 719 億 1 千万円で、対前年度比約 4 億 4 百万円、0.6%の増となっております。特別会計予算の増額は、主に介護保険事業特別会計、後期高齢者医療特別会計によるものとなります。国保特会の財政赤字に対しては、引き続き一般会計からの政策的な繰り入れを行います。

（主要事業の説明）

次に令和3年度の主な事業を、第5次那覇市総合計画

で掲げた5つのめざすまちの姿に沿ってご説明いたします。

今回の予算編成では、全庁でSDGsに向き合うため、17のゴールと各事業の紐づけを行っております。

SDGsは、自治体の目指す方向そのものであり、第5次総合計画を着実に推進することが、そのゴールに繋がるものと考えております。

今後とも、「誰ひとり取り残さない」という理念を心に刻み、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでまいります。

しばらくは、新型コロナウイルスの感染状況による制約もありますが、全ての事業が滞りなく実施できるよう鋭意努めてまいります。

それではまず、「多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA」に係る事業についてご説明いたします。

(小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり)

地域活動がコロナ禍によって厳しい状況の中においても、市内全域での小学校区まちづくり協議会の設立を目指し、地域に寄り添いながら人的・財政的な支援を継続して取り組みます。

地域の課題解決につなげることを目的に、ボランティアを希望する人材とそれを求める団体を人材データベースに集積し、マッチングを図ることにより、多様な人材

が活躍する市民社会の実現を目指します。

市民の交流や活動機能を備えた小祿支所の建替えについては、本体工事に着手し、令和4年度の完成を目指します。

また、新真和志支所複合施設については、真和志地域の活性化の核となる施設整備に向け、事業手法の検討調査などを進めてまいります。

（地域の力が重なる安全安心のまちづくり）

安全で快適な生活環境の実現のため、地域団体が設置する保安灯に加え、防犯カメラの設置費用も補助します。

生活に困窮している方に対して、生活保護に頼らない経済的自立に向けた計画の実施を伴走型で支援します。

また、消費者被害の拡大防止、啓発活動・消費教育に取り組む相談体制の強化を図ります。併せて、外国人が安全安心に暮らせるよう、住民登録や医療、子育て等生活に係る一元的な相談窓口の充実に努めます。

消防力強化のため、小祿支所との合築により新設する「仮称・小祿南出張所」建設工事に着手します。

観光客や市民が迅速かつ的確に避難場所が分かるよう、避難所標識を整備します。

避難所においては、感染症対策資器材として簡易テントやマット等を整備することにより、避難所生活における質の向上に努めるとともに、発災時に備え、引き続き備蓄品整備に取り組みます。

(交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり)

平和の発信場所である恒久平和のモニュメント「なぐやけ」に、多くの人々が訪れてもらえるよう誘導サインを設置します。

旧那覇飛行場用地問題の解決に向け、引き続き「仮称・大嶺コミュニティセンター」の整備に取り組みます。

川崎市との友好都市提携 25 周年にあたり、佐藤惣之助詩碑の移設除幕式などを実施します。

また、福州市とは友好都市提携 40 周年の節目を迎えるにあたり、相互理解と友好的な親善交流に取り組みます。

(人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり)

第 4 次那覇市男女共同参画計画を推進し、人権や一人ひとりの個性、性の多様性を尊重する社会づくり、女性の活躍の場を増やすための取組などを進めます。

また、中学 1 年生を対象にいじめやデートDV防止への意識啓発を行うとともに、「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」では、拉致問題等に関するパネル展を実施し、人権の尊さを発信します。

次に、「互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

(地域で暮らし 地域で支えるまちづくり)

地域で悩みを抱える方が孤立しないよう、声かけ等の

訪問活動を行う「地域見守り隊」の結成充実を図り、誰もが安心して生活できる地域づくりに取り組みます。

災害時に避難行動要支援者が迅速に避難できるよう、個別避難計画書の作成を推進し、福祉避難所の設置数を拡充するなど、避難支援体制の構築を図ります。

地域包括ケアシステムの構築に向け、地域ケア会議を通じ、様々な専門職や地域住民及び企業の方々と協働して、地域課題の把握や必要なサービス創設などに取り組みます。

65歳以上の加齢性難聴者の生活の質の向上を図るため、補聴器購入費用の一部支援事業を開始します。

また、日常生活用具のひとつである紙おむつの給付対象要件を療育手帳重度の所持者へ拡充し、知的障がいのある方の負担軽減を図ります。

全国と比較して深刻な状況にある子どもの貧困問題に緊急的に対応するため、庁内に専門の支援員を配置するとともに、実情に応じた子どもの居場所を設置し、子ども達の自立に向けた支援に取り組みます。

(すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり)

那覇市健康増進計画「健康なは21(第2次)」の推進とともに、「新型コロナウイルスに負けないからだづくり」の実践を事業所や関係機関と連携し、働き盛り世代の健康課題の解決に向け支援します。

健康・長寿県おきなわを取り戻すため、市民が健康づ

くりや生涯にわたって運動を楽しむことができるよう、健康ウォーキング大会や講座を開催します。

生活習慣病の予防、がんの早期発見及び早期治療を目的に、職場等で受診機会のない市民を対象に、がん検診や肝炎ウイルス検診等を実施します。

国の制度拡充等を受け、不妊症や不育症の方の経済的負担軽減のため、治療費や検査費用を支援します。

児童・生徒のむし歯有病率を踏まえ、2歳児の総合的な歯科健康診査を実施するとともに、小中学校でのフッ化物洗口を安全面に配慮しながら推進します。

那覇市自殺対策計画に基づき、関係機関との連携会議や周知啓発のためのパネル展の開催、心理士による相談窓口の開設など、自殺死亡率の低減を図ります。

(身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり)

生活習慣病の重症化予防を目的に、医療機関受診が必要な人や治療中の方に対し、受療勧奨及び保健指導を実施します。

また、高齢者に対する保健事業と介護予防を一体的に実施するため、健康課題を分析し対象者把握に努め、重症化やフレイル予防の健康教育等を行います。

那覇市立病院の建替えについては、新型コロナウイルスによる影響を踏まえ、設計内容の一部見直しにより感染症対応を強化します。

(衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり)

食中毒の発生を未然に防止するため、市内で製造及び流通する食品等の試験検査などを実施し、食の安全安心を確保します。

また、全ての食品等事業者に^ハACCP^サに沿った衛生管理が制度化されることに伴い、自主衛生管理体制を構築するための取組を支援します。

結核患者の早期発見や感染拡大防止に繋げるため、私立学校や特別養護老人ホーム等の社会福祉施設などで実施する胸部エックス線の検査費用の一部を補助します。

次に、「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

(子育てが楽しくなるまちづくり)

待機児童の解消を図るため、施設を利用する園児の安全安心な環境整備や必要な保育定員の確保に努めます。

保育士確保に向けては、働く環境の整備として、年休取得の推進や保育士周辺業務の負担軽減を図る支援を継続するとともに、潜在保育士の復職支援や正規雇用の促進等に引き続き取り組みます。

公立こども園においても、事務作業の軽減・働き方改革を進めるため、ICTを活用した業務支援システムを導入します。

風邪等の病気で保育所を利用できず、保護者が仕事を

休めない場合に、病院等の専用スペースで看護師等が児童を預かる「病児保育事業」について、小祿地区への新規開設に取り組みます。

子育て世代を支援する「ら・ら・らステーション」では窓口で専門員を配置し、各家庭からの相談に応じて情報提供や助言など適切な支援を行うとともに、LINE アプリを活用した相談、情報発信に努めます。

児童虐待の防止に向けては、子ども家庭総合支援拠点において、世帯に寄り添った相談、訪問等を行うことにより、世帯の実情を把握するなど、継続的な支援に努めます。

低所得世帯の放課後格差の解消を図るため、学習塾などで使えるスタディークーポンを提供するモデル事業を継続して実施します。

(自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり)

「GIGA スクール構想の実現」を踏まえ、児童生徒1人1台の端末における新たなICTの効果的な活用を促進し、子どもたちの情報活用能力を豊かに育む取組を強化するとともに、教員研修等を充実させるための支援員を配置します。

全中学校区に子ども寄添支援員を配置し、コロナ禍により生活環境の変化や学校休業等で不安を抱える児童生徒や保護者に寄り添い、学校や行政機関と連携して必要な支援を行います。

学校施設については、天妃小学校校舎、識名小学校及び与儀小学校の体育館等の改築工事に着手するなど、引き続き、安全安心な教育環境の整備に努めます。

教員の業務負担の軽減を図るため、中学校部活動指導員やスクールサポートスタッフを配置します。

(生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり)

那覇市人材育成支援センター「まーいまーいNaha」においては、引き続き人材育成と住民等の学習・交流活動などの支援に努めます。

放課後等に子どもたちへ多様な体験・交流活動の機会を提供する放課後子ども教室を推進します。

地域学校連携施設は、地域の方々や団体等をつなぐ場、子育て・健康・福祉サービスを行うコミュニティの拠点として、地域へ開放することに取り組みます。

(郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり)

那覇市歴史博物館では、令和4年度の首里城再建開始に合わせ、本市が所有する国宝尚家関係資料のうち、首里城に関連した文書もんじょの一部をほんこく翻刻・公開します。

また、歴代国王の位牌を安置した重要文化財である崇元寺跡地一帯の適切な保存・活用を図るため、国史跡指定に向けた整備に取り組みます。

首里城周辺の文化施設等への誘客や受け入れ体制を強

化するため、識名園のトイレ増設や首里金城町の大アカギの木道整備などに取り組みます。

「那覇文化芸術劇場なはーと」では、質の高い舞台作品の公演やアウトリーチ等の事業実施、そして社会包摂に繋がる芸術活動などを通して、新たな価値を生み出すまちを先導します。

次に、「ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

(ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり)

読売巨人軍の選手たちが充実した春季キャンプを過ごし、より良い成果が得られるよう、最適な練習環境を提供してまいります。

昨年は那覇ハーリーや那覇大綱挽、NAHAマラソンなど多くのイベントが中止や延期等となりました。再開を待ち望んでいる多くの市民や観光客が安心して楽しめるよう、感染防止対策を徹底し、関係者と連携して開催に取り組みます。

また、首里城公園を皮切りに、ゆいレール、国際通りを巡る東京オリンピックの聖火リレーが、盛況かつ安全に実施されるよう取り組みます。

(様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり)

伝統工芸の担い手育成や観光振興を目的に、首里当蔵

町に整備される染物や織物の産地拠点施設の建設を支援します。

那覇港管理組合では第2クルーズバース岸壁の整備に取り組んでおり、早期供用開始に向け引き続き支援してまいります。

市が保有するデータの公開を引き続き推進するとともに、民間事業者のノウハウを活かしたアイデアソン・ハッカソンのイベントを開催し、オープンデータの利活用推進に取り組めます。

新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、市域事業者が新たな生活様式に対応しながら事業活動の継続及び、事業転換や業態変更などの新たな取組を支援します。

(産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり)

デジタル技術が進展する中、次世代を担う小学生を対象にプログラミング講座やコンテスト等を実施し、情報技術への興味や理論的思考の習得など、将来のキャリア形成に役立てます。

(中心市街地を活かしたまちづくり)

新型コロナウイルス感染症により打撃を受けた商店街の活動継続や活性化を図るため、商店街や通り会等が行うPR事業、課題解決のための事業などの提案事業に対し、頑張るマチグッー等支援基金を活用し支援します。

独特なマチグッー文化が体感できる、沖縄の食の魅力

発信拠点施設として、第一牧志公設市場の整備に引き続き取り組みます。

牧志公設市場の衣料部・雑貨部は、時代の変遷とともにその役割が民間へ移ったことなどから令和3年度末に廃止する方針とし、入居事業者に対しては移転補償を通して事業再開の支援を行います。

次に、「自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

(省エネを実践し、資源が循環するまちづくり)

地球温暖化対策は世界的なテーマとなっており、国においてもカーボンゼロを目指す中、省エネ・サービス・行動などの、温暖化対策に資する、あらゆる賢い選択を行う国民運動「COOL CHOICE」の普及啓発を継続して実施します。

資源化物の持ち去り防止と、ごみの減量化・資源化の意識を高めるため、引き続き早朝パトロールと拠点回収を実施します。

飲食店を対象に「食べきり協力店登録制度」の普及啓発を図り、外食における食べ残しなど食品ロス削減の推進及び廃棄物の発生・排出抑制の促進に取り組みます。

(自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり)

自然環境保全の重要性を理解してもらうため、自然観

察会等の実施による環境意識啓発や貴重な自然体系を守るために特定外来生物の防除に努めます。

市民や民間事業者との連携による公園の効果的な整備・再生を推進するために、PPP や Park-PFI 制度等を活用した新たな取組により、市街地の緑化の促進及び魅力溢れるまちづくりに取り組みます。

県内唯一の中国式庭園である福州園の利用者増加を図るため、夜間の景観演出等、各種イベント会場として使用できるよう、機能強化の再整備を行います。

(暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり)

LRTの導入に向けて、技術的・経済的・まちづくりなどの多角的な視点から調査・検討を進めます。

観光客の増加等に対応するため、沖縄都市モノレール株式会社が行う車両の3両編成化等の取組に対して、引き続き、沖縄県や浦添市と連携して支援します。

石嶺、大名、宇栄原の各市営住宅の建替工事を継続するとともに、真地市営住宅では、解体工事に着手します。

久茂地泊線など、誰もが歩きやすい安全で快適な歩行空間の整備を進めるとともに、道路空間を利用した自動二輪車・自転車等駐車場の整備や民間が行うシェアサイクル事業の支援など、誰もが移動しやすいまちづくりに取り組みます。

(災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり)

石嶺線や真和志線、一銀線などの都市計画道路について、交通渋滞の緩和やバリアフリー化等、安全性、快適性の向上を図るため、体系的な道路網の整備を進めます。

長寿命化修繕計画に基づき、三原橋などの修繕や耐震化を図るとともに、甲辰橋の早期完成を目指します。

水道水の安定供給のため、^{とみしろ}豊見城配水池の本体工事に着手するとともに、引き続き、市内一円の水道管路の耐震化を推進します。

また、首里石嶺地区の雨水調整池建設を進めるとともに、公共下水道の整備や下水道ストックマネジメント計画に基づく修繕・改築に取り組めます。

(那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり)

那覇軍港の跡地利用については、地主会との合意形成活動を継続して実施し、市街地や空港に近いなど、当該地区の特性を活かした、本市の発展、ひいては沖縄県の発展に資する計画づくりに取り組んでまいります。

最後に、「市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う」に係る事業について、ご説明いたします。

(市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり)

マイナンバーカードは、本人確認機能を有しており、今後のデジタル社会の基盤として活用されることから、

窓口における申請案内サポートを実施し、カードの普及促進を図ります。

また、働き方改革の一環として、在宅によるリモートワークができる環境整備を進めます。

新たに「デジタル化推進室」を設置し、専門的な人材の外部登用を図りながら、行政手続きのデジタル化等により市民サービスの向上や業務の効率化に取り組みます。

（効率的で効果的な行財政運営を行う）

SDGs に対する市民・職員の機運の醸成を図るため、有識者による基調講演やシンポジウムを開催します。

厳しい経済環境にあっても税収の維持確保に努め、ファシリティマネジメントの推進、施設整備における民間活用の検討を行うなど、これまで以上に持続可能な行財政運営を進めます。

本市は、いよいよ市制施行 100 周年を迎えます。記念式典や記念事業、市民団体等が実施する各種イベントなど、市民の皆様と共にこの節目を祝います。

（結びに）

市政運営にかける私の思い、令和 3 年度の予算案や主要事業の概要などについて説明いたしました。

最後に、もう一言、私の思いを添えたいと思います。

（立ち向かう姿勢 次世代に）

競泳女子の池江璃花子選手が、大病を乗り越えレース復帰を果たしました。

「乗り越えられない壁はない」と述べ、前向きに立ち向かっていく姿勢に心を打たれました。再び表舞台に戻ってきた池江選手の強い精神力と、並々ならぬ努力は、多くの人々に勇気と感動を与えています。

私は、あらゆる困難に立ち向かっていく姿勢を、次代を担う若者たちに見せていくことが大切であると考えております。その姿勢は想いとして引き継がれ、未来を切り拓く大きな力になると信じています。

私たちは今、大きな試練の渦中にあります。一つ一つ乗り越えていく気概をもって、市政運営に臨む所存であります。

市民の皆様並びに議員各位のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。令和3年度施政方針の結びの言葉といたします。

いっぺーにふえーで一びる。

令和3年2月9日

那覇市長

城間 幹子

NAHA SDGs



発行 2021年2月
那覇市企画財務部企画調整課



**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS**

那覇市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。